

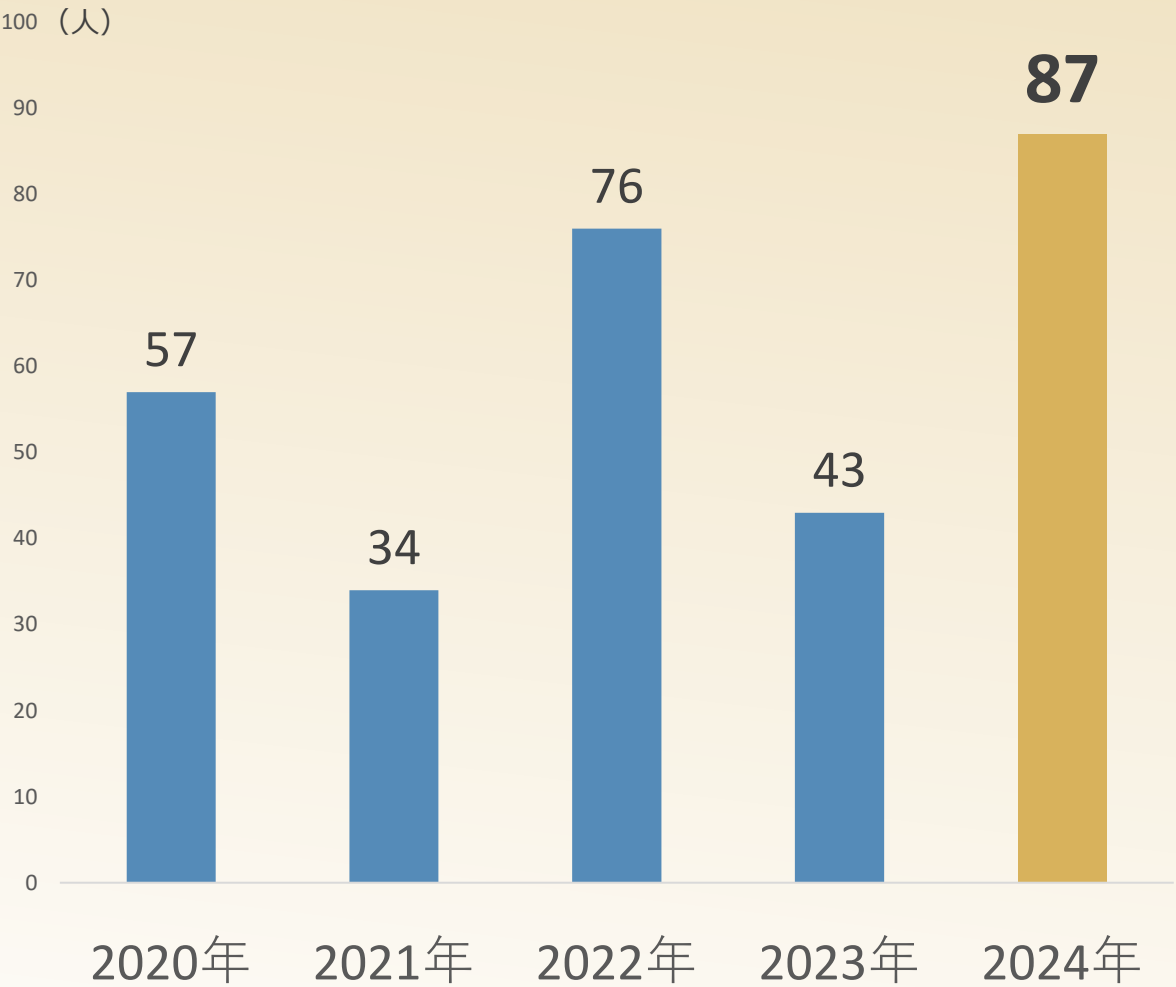
2024年（令和6年）5－9月

大阪府監察医事務所取り扱い事例における 熱中症死亡例に関する統計

※大阪市内のみを対象としています
医療機関で診断された事例は含みません

大阪府監察医事務所

過去5年間の熱中症死亡者数

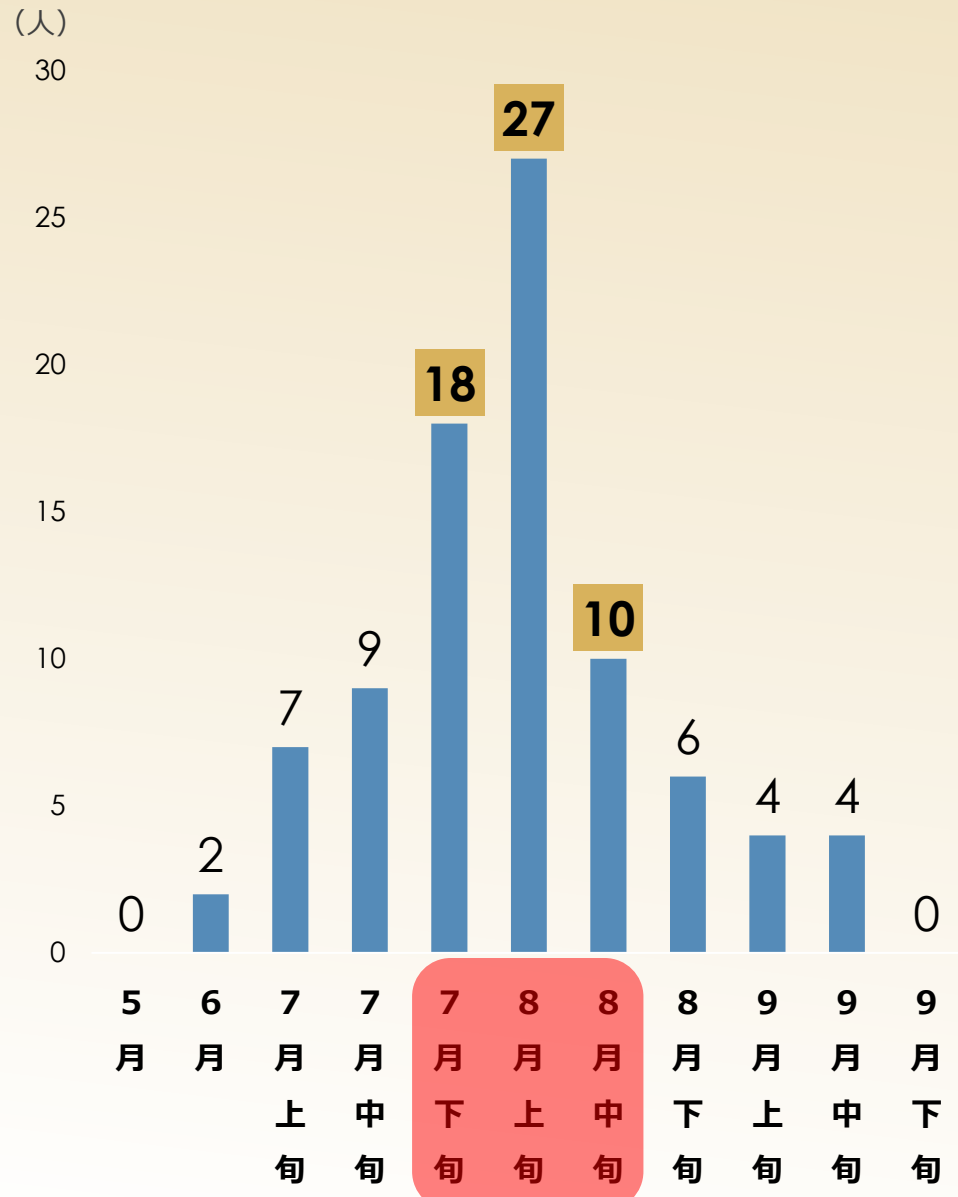


	5-9月総検案数	うち熱中症死亡者数
2020年 (令和 2 年)	2,027	57
2021年 (令和 3 年)	2,033	34
2022年 (令和 4 年)	2,282	76
2023年 (令和 5 年)	2,282	43
2024年 (令和 6 年)	2,270	87

・ 当事務所で取り扱った事例のうち、2024年5－9月に死因が熱中症と診断された人は **87人** であり、過去5年間で最も多かった。

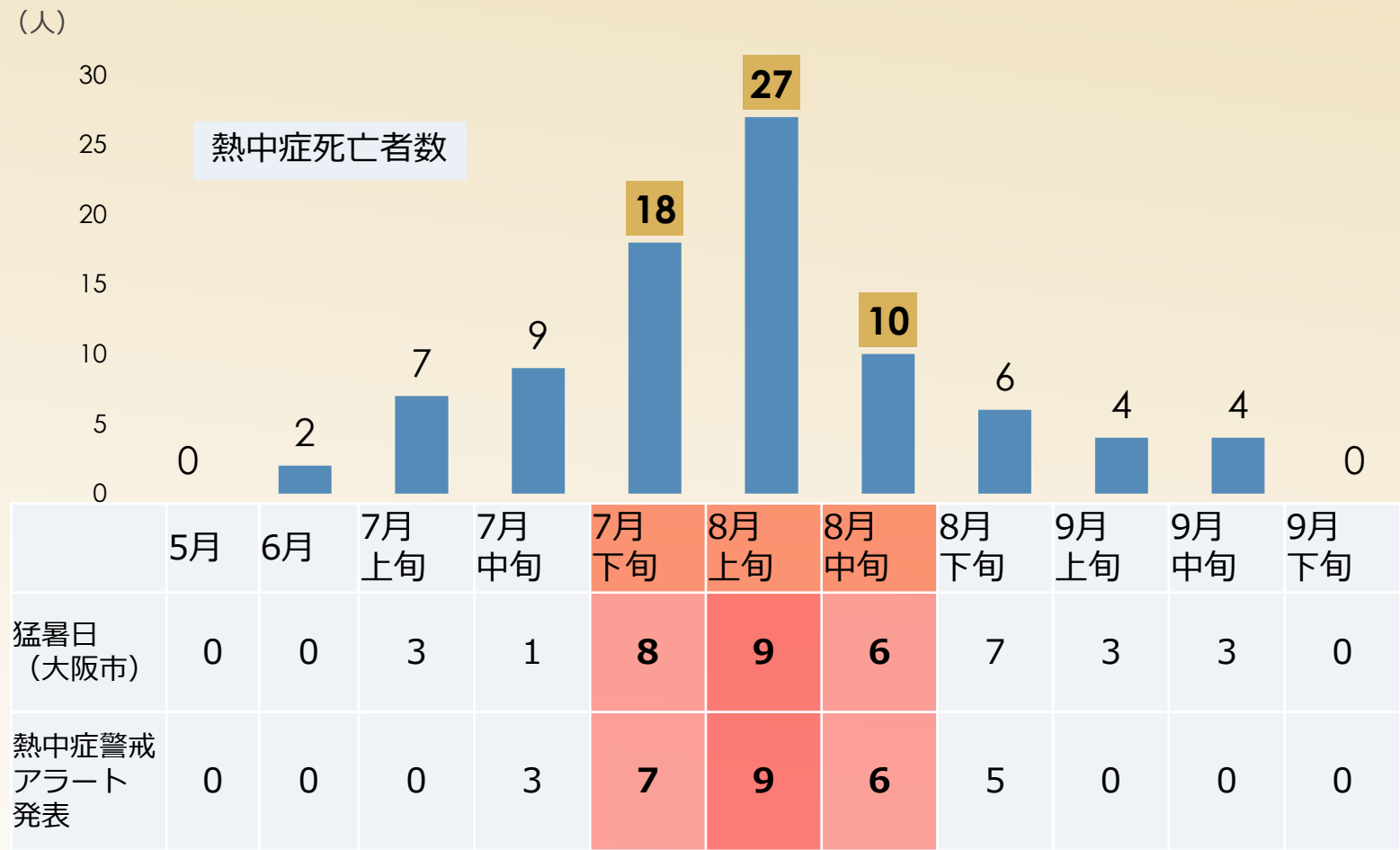
2024年 5-9月 月別熱中症死亡者数

※ 2024年近畿地方梅雨明け：7/18頃（気象庁発表による）



- 2024年の熱中症死亡者発生のパークは
7月下旬から8月中旬にみられた。
- 今年は猛暑の影響か、パーク期間の前後（7月中旬や8月下旬以降）でも、多くの死亡者がみられた。
- 例年、死亡者発生のパークは梅雨明け時期に大きく影響を受けている。
- 梅雨明け後、約2－3週間の期間を
『熱中症対策の最重要対策期間』 と考える。

熱中症死亡者数と大阪市猛暑日数・熱中症警戒アラート発表の日数との関係



猛暑日とは：気象庁発表

→ 1日の最高気温が35℃以上の日を指す。

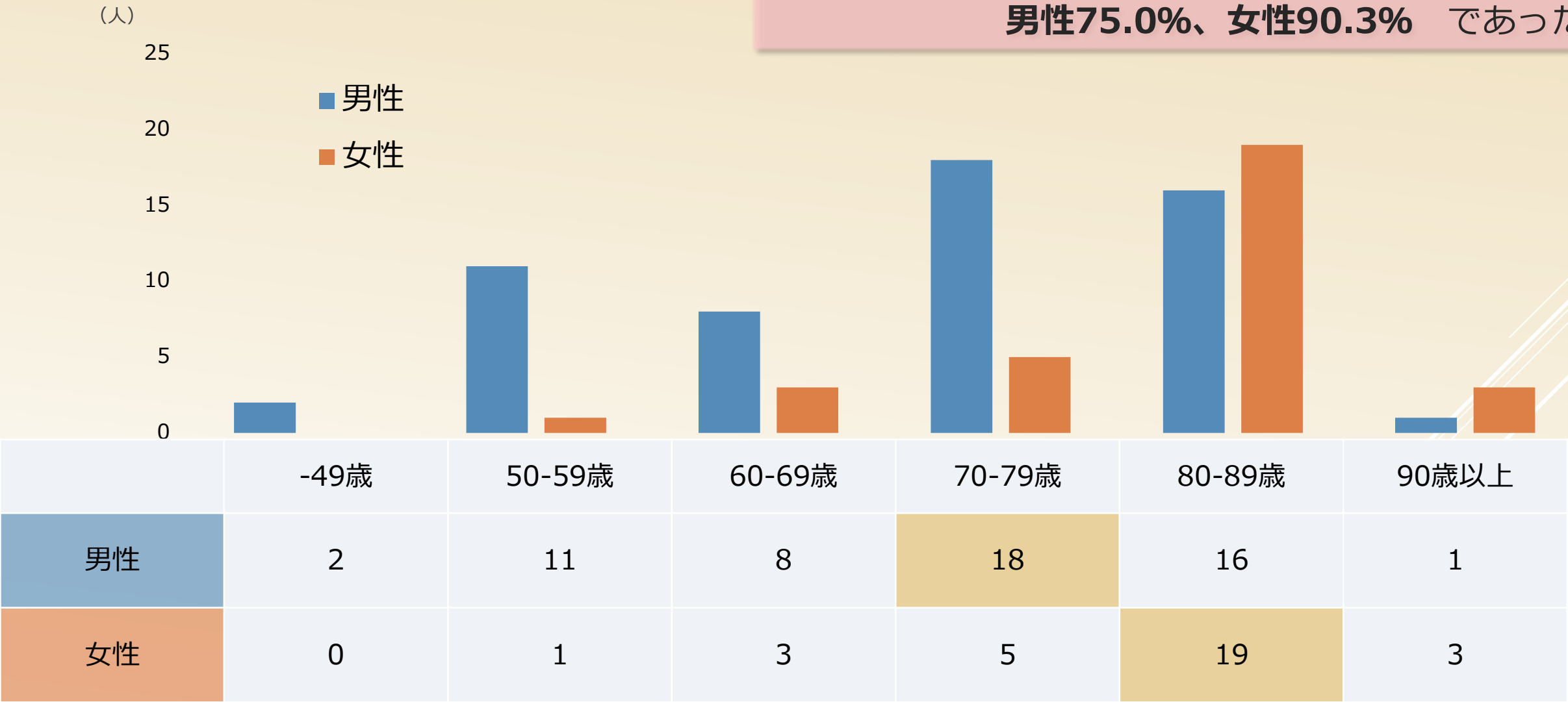
熱中症警戒アラートとは：環境省・気象庁発表

→ 熱中症を予防することを目的とした指数である「暑さ指数」に基づき発表されるもの。
「暑さ指数」3.1以上が「危険」とされるが、とくに危険な暑さへの気づきを呼び掛けることが考慮され、アラート発表の基準は「3.3」となっている。
大阪府においては、府内6つの暑さ指数情報提供地点のうち、いずれかの予測値が3.3を超える場合に発表される。

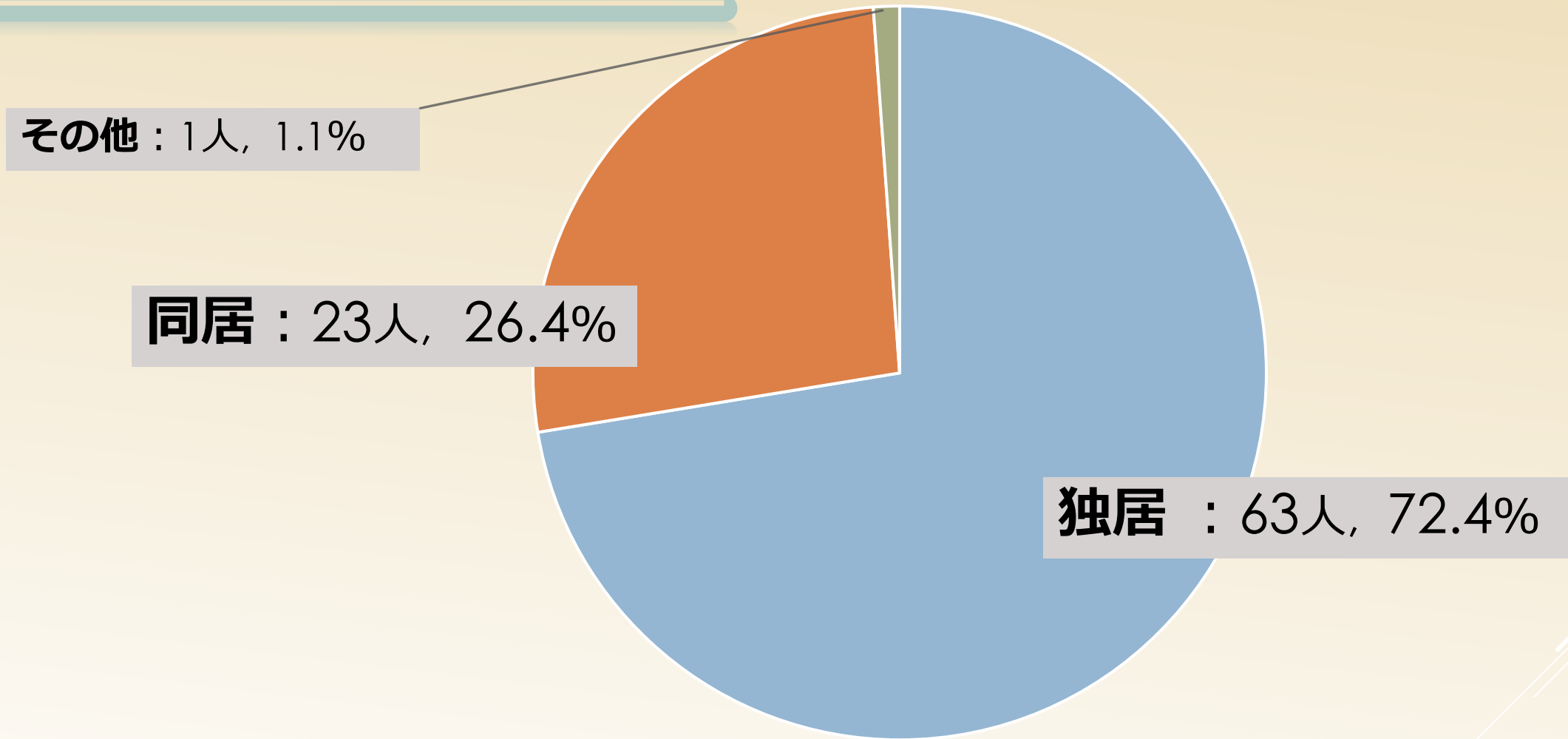
- 当事務所での熱中症死亡者数のピークは、大阪市猛暑日および熱中症警戒アラート発表のピークとほぼ一致していた。（8月上旬）
- 熱中症死亡を防ぐために、『暑さにより死亡するリスクが高い日』を示す目安としてもらいたい。

男女・年代別内訳

- 男性は70歳代、女性は80歳代が最も多かった。
- 65歳以上の高齢者が占める割合は、
男性75.0%、女性90.3% であった。

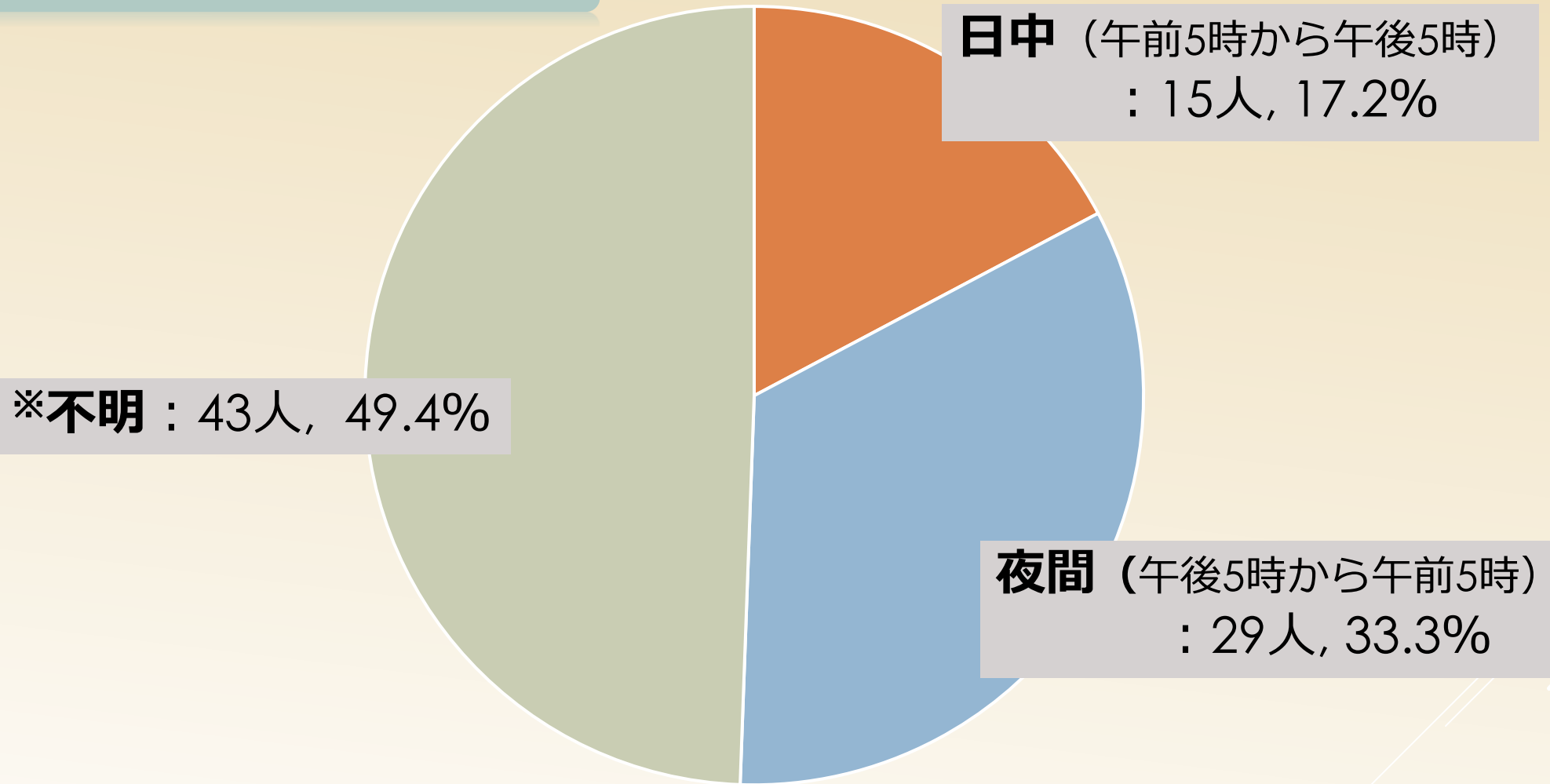


独居・同居の内訳



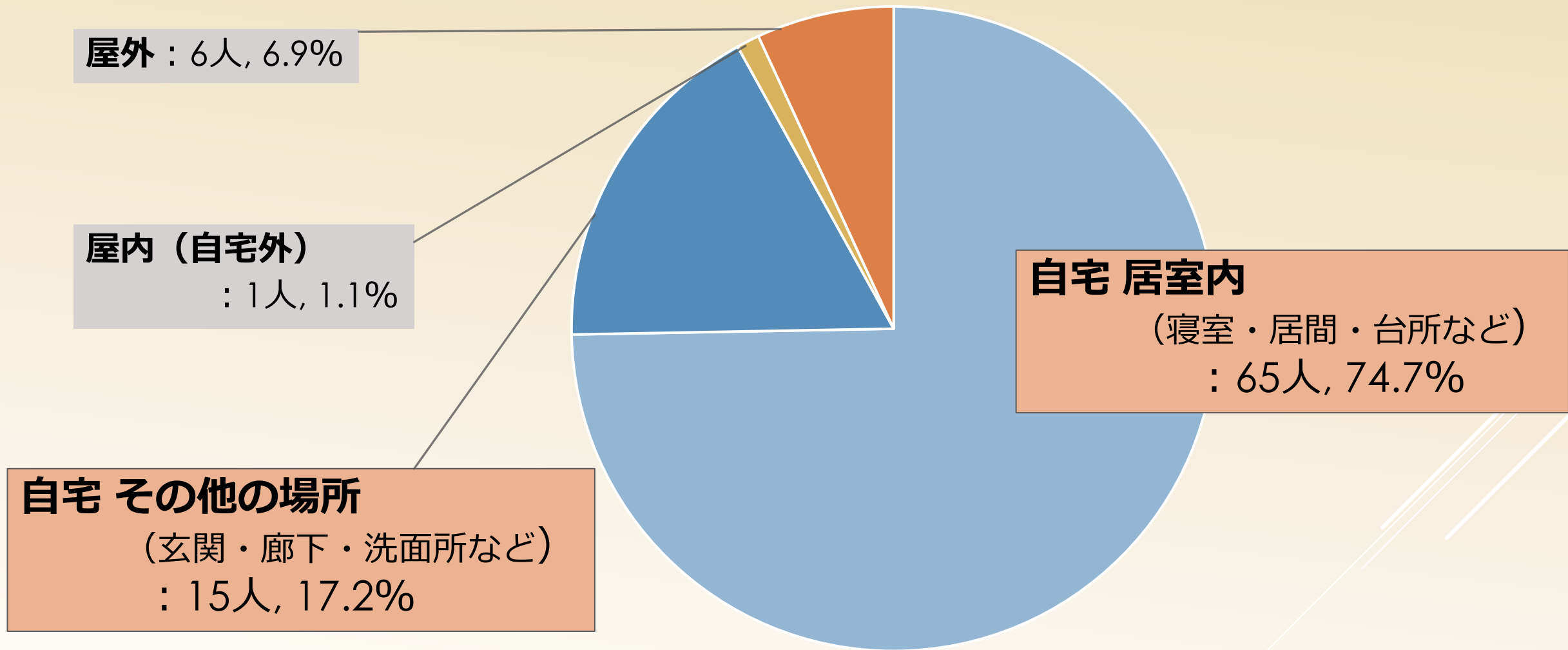
- 死亡者の約 7 割は独居者であったが、同居で見守る体制があっても熱中症死亡例は多く見られた。

死亡時間帯の内訳



- 死亡時間帯は日中に比べ夜間の割合が多く、不明が約半数を占めた。
(※夏季は死後変化も早く、死亡時間帯の推定が困難な例も多くなる。)

発症場所の内訳



- ・ 発症場所の約 9 割は自宅内であり、居室内が多くを占めた。

熱中症死亡者の普段の生活自立度

身の回りの事が自分で出来る（自立）	65	74.7%
多少の援助が必要	12	13.8%
多くの場面で援助が必要	5	5.7%
寝たきり	3	3.4%
不明	2	2.3%



- ・ 熱中症で死亡した人の約 7 割は普段、自立した生活を送っていた。
- ・ 介護度が高い方が、特に熱中症死亡のハイリスク者であるとは言えない。
- ・ 『熱中症による死亡は、誰にでも起こりうること』という意識付けが重要。

死亡前の体調の変化等

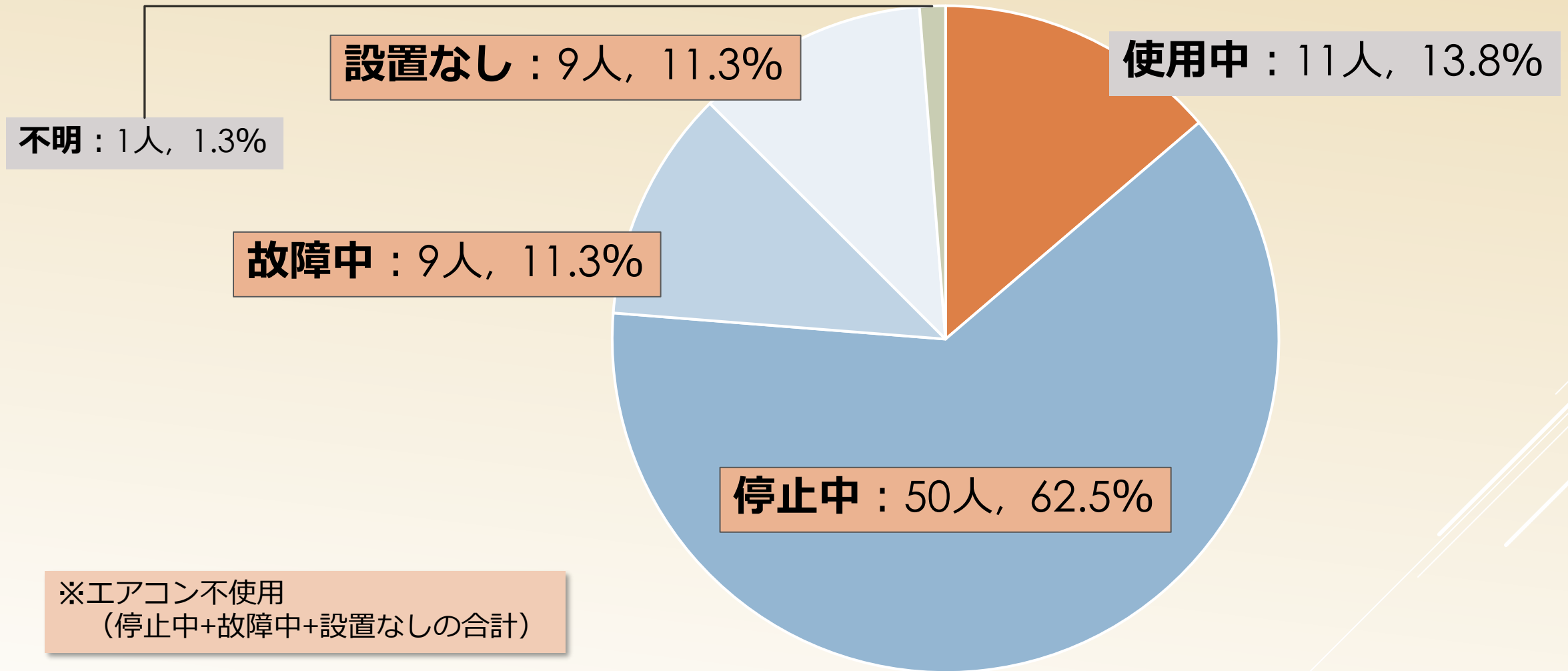
(複数回答可)

食事や水分がとれない	12
元気が無くぐったりとする	11
めまいやふらつき	5
体調不良を訴える (しんどい、など)	5
寝たきりになった	2
吐き気	1
特になし	20
不明	34



- 独居の方などで、死亡直前の状況がわからない例が多いが、同居家族やヘルパー等からの聞き取りの結果、何らかの体調不良を訴える例が多くみられた。

エアコンの使用状況（自宅での発症例 80例が対象）

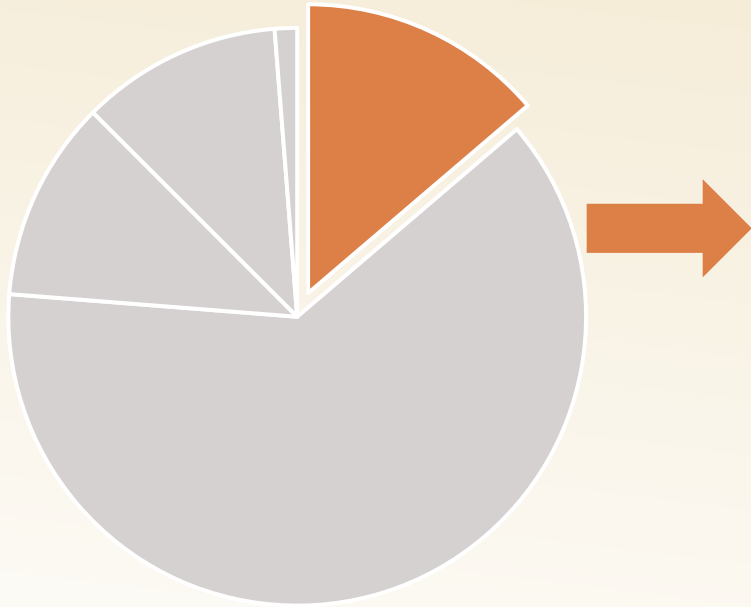


- 自宅発症例の約85%はエアコン不使用※の状態であった。

エアコン使用中の詳細

- ・ エアコンを使用していたのに亡くなっているとはどういう状況か？

使用中：
11人, 13.8%



11例中8例は、

エアコン温度設定に対して、室温が非常に高い状態であった

- ・ 設定温度が16℃・20℃台前半であるにもかかわらず、発見時の室温は30℃を超えているなど。
- ・ エアコン故障またはエアコン使用時に窓が開いていたなどの効果不良を伺わせた。

多くは熱中症対策に有効な使用方法では無かったと考えられる。

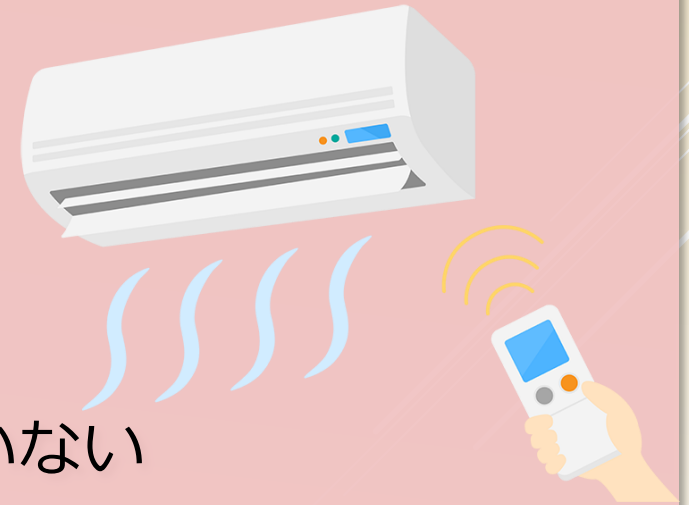
エアコン不使用にまつわるエピソード例

- 死亡時にエアコンを使用していなかった（停止中・故障中・設置なし）の68例について、エアコンを使用しなかった・できなかったエピソードについて、調査を行った。

エピソードあり 20	
エピソードなし	12
不明	36

具体的には・・・

- ・ エアコンが嫌い
- ・ 電気料金未納であった
- ・ 節電・節約していた
- ・ リモコンが見当たらない
- ・ 故障しており、修理していない
- ・ 他の部屋に設置されていたが、自分の生活する部屋には設置していない など



2024年 熱中症統計のまとめ ①

過去最高の熱中症死亡者数

- 2024年5－9月に大阪府監察医事務所で取り扱った熱中症死亡者数は87人であり、2019年以降、最も多い死亡者数であった。
- 高齢者・独居者、自宅内での発症の割合が高い。

梅雨明け後2 - 3 週間は熱中症最重要対策期間

- 2024年の熱中症死亡者数のピークは7月下旬から8月中旬であった。
- この死亡ピークは、大阪市の猛暑日や熱中症警戒アラート発表のピークと同時期を示していた。

皆様にお伝えしたいこと

- この期間を『熱中症の最重要対策期間』として、『暑さから自分の命を守るべき期間』としてあらためて意識することが必要です。
- 普段の天気予報や、熱中症警戒アラートの発表は、熱中症の危険性を広く知らせてくれる重要な情報です。熱中症予防対策を強く意識する目安としてください。

2024年 熱中症統計のまとめ ②

》》 有効な熱中症対策（エアコン使用等）を心掛けてください

- 自宅発症例の約85%はエアコン不使用であった。
- エアコンを使用していたにもかかわらず、熱中症対策に有効な使用方法でなかった例も多くみられた。
- 様々な事情により、エアコン使用を意識的に控える例もみられた。

皆様にお伝えしたいこと

- 一般的に室温が28℃を超えると、熱中症の可能性が高くなると言われています。エアコン等を用いて安全な室温を保ってください。
- エアコンを使用していても、実際に熱中症予防に有効な室温や湿度を保っているか、の確認が必要です。
- 自分が生活している環境（居室内等）の熱中症危険度について、感覚で判断するのではなく、室温・湿度計等を使って客観的に把握し、対策を講じてください。
- エアコンは使用時期を迎える前に、故障の有無を確かめる為の試運転や点検をお願いします。

2024年 熱中症統計のまとめ ③

》》》 熱中症は住み慣れた自宅であっても、誰にでも起こりうること

- ・ 熱中症死亡者は独居、高齢者などハイリスクと考えられる方ばかりではない。
- ・ 同居や介護サービスにより見守る体制がある方、普段自立した生活を送っている方であっても、熱中症で亡くなっている。

皆様にお伝えしたいこと

- ・ 普段自立した生活を送っている方、住み慣れた自宅の中であっても、熱中症により多くの方が命を落としています！
- ・ 自分が生活している環境（居室内等）の熱中症危険度について、感覚で判断するのではなく、室温・湿度計等を活用して、客観的に把握し、対策することが非常に重要です。
- ・ 周囲の見守りだけでは、熱中症死亡は防げません。ご自身が普段から熱中症に対して意識するよう心掛けてください。
- ・ ご自身で細かな体調の変化になるべく早く気づき、誰かに相談する・助けを求める、必要に応じて医療機関を受診するなどの行動をお願いします！